

2017年12月7日

報道関係各位

一般社団法人 日本電気計測器工業会(JEMIMA)

電気計測器の中期見通し2017～2021年度

2017年度の電気計測器全体の売上見込みは 5,556億円(前年度比+0.1%)、
製品群「電気測定器」において、EV(自動車)と5G(通信)市場に期待。

一般社団法人日本電気計測器工業会(JEMIMA、会長 堀場 厚)は、当工業会の統計データをもとに2021年度までの電気計測器の需要見通し調査を行い、冊子「電気計測器の中期見通し2017～2021年度」を発行いたしました。

電気計測器全体(国内売上+輸出)の2016年度実績は、期待されていた官公需が伸び悩み、円高による競争力の低下、中国市場の景気回復の遅れなどから、計測器全体で5,816億円(前年度比+2.2%)の見込みに対して、実績は5,552億円(前年度比-2.4%)でした。製品群別では、「電気測定器」、「PA計測制御機器」、「環境計測器」は前年度比でマイナスでしたが、「電力量計」、「放射線計測器」は昨年度に引き続きプラス成長が続いています。

2017年度は、「電気測定器」、「PA計測制御機器」の製品群では、自動車関連産業での新たな分野であるEV市場などの新規分野の伸長が期待されているものの、品目(市場)により需要にばらつきがありほぼ横ばいを見込みました。「電力量計」、「放射線計測器」の需要は一巡し、電気計測器全体として微増の5,556億円(前年度比+0.1%)を見込みました。

2018年度以降は、「電気測定器」の製品群では、自動車産業のEV市場や次世代移動通信システム「5G」への大きな計測需要への期待から、2021年度までの年平均成長率を6.3%の増加と見通しました。電気計測器全体では微増、微減を繰り返し、2017～2021年度の年平均成長率はほぼ横ばいと見通しました。日本国内の人手不足による生産自動化投資が増えていることから、電気計測器も緩やかな増加となることが期待されます。

海外拠点の売上を含む「国内売上+輸出+海外拠点売上」の2016年度実績は、海外拠点売上の減少が響き、前年度比-3.9%の7,507億円となりました。2017年度は、国内市場が自動車産業のEV市場などの新分野や東京オリンピック・パラリンピックへ向けたインフラ整備や設備投資、また、海外の緩やかな景気回復が予想されることから、前年度比+0.7%の7,561億円を見込みました。2018年度以降は、微増微減を繰り返し、2021年度は、2016年度比+1.3%の7,603億円になるものと見通しました。

本日発行・発表の「電気計測器の中期見通し2017～2021年度」は有料で頒布致します。

「電気計測器の中期見通し2017～2021年度」発行・発表会の開催概要:

- ・ 主 催: 一般社団法人日本電気計測器工業会 調査・統計委員会
- ・ 開催日時: 2017年12月7日(木) 13:30～17:00
- ・ 場 所: 全国町村会館 (東京都千代田区永田町)

発行刊行物: 書籍名「電気計測器の中期見通し2017～2021年度」

発 行 日: 2017年12月7日

頒 布 価 格: 一 般 : ¥8,640-(税込・送料別)

JEMIMA会員 : ¥3,240-(税込・送料別)

【「電気計測器の中期見通し2017～2021年度」の主な内容】

【掲載内容】

序

第1章 本書の使い方

第2章 中期見通しの概要

第3章 電気測定器（一般測定器）

第4章 P A計測制御機器

第5章 電力量計（計器）

第6章 環境計測器

第7章 放射線計測器

第8章 工業会自主統計

